まちのさらなる進化に向けて
長崎市の予算

長崎市では、まちづくりの指針となる「長崎市第四次総合計画」に沿ってまちづくりを進めています。

人口減少克服や地方創生を実現し、安心して住み続けられるまちとなるよう、市民の皆さんと力を合わせて、次の時代の基盤づくりや、長崎に合った暮らしやすいまちづくりに取り組むことが重要になります。

そのような中、平成29年度の予算が決定しました。この予算に基づいて、市はさまざまな取り組みを推進します。

財政課 ☎829・1126
都市経営室 ☎829・1111

第四次総合計画

将来の都市像

個性輝く世界都市

希望あふれる人間都市

まちづくりの基本姿勢

つながりと創造で新しい長崎へ

将来の都市像を「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」とし、これを実現するためのまちづくりの基本姿勢を「つながりと創造で新しい長崎へ」としています。

これは、世界がその価値や魅力を認める「長崎らしさ」と、住む人を起点に考える「暮らしやすさ」に重きを置きながら、新しい長崎をみんなで創っていこうというものです。

予算はこの計画に基づいて作られています。

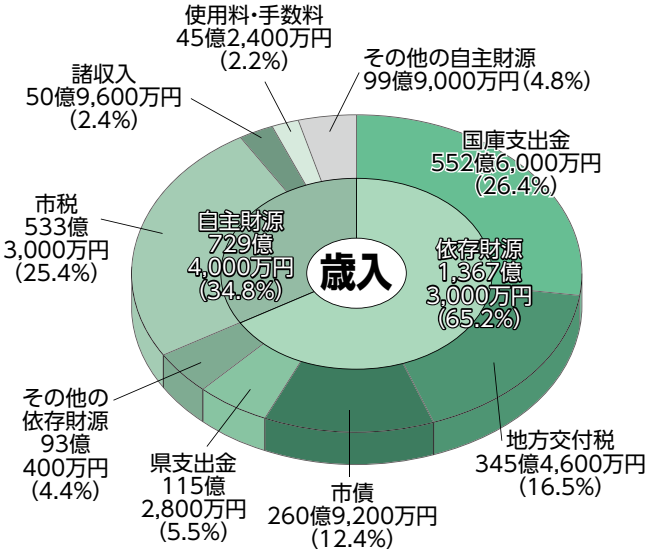
どう使うの？ 長崎市のお金

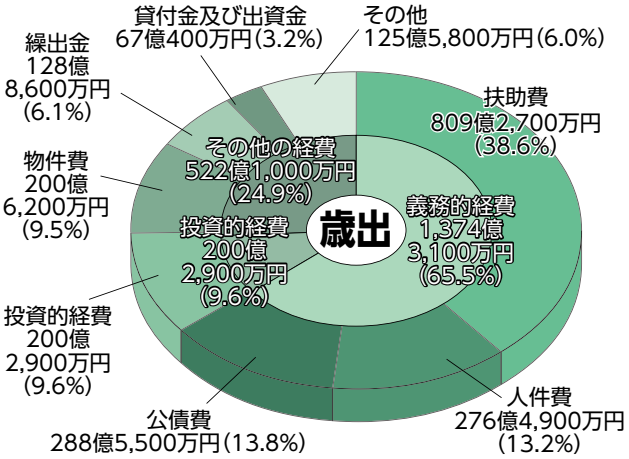
平成29年度 当初予算

平成29年度の当初予算は、「交流の産業化」の推進による地方創生の実現と、人口減少克服を目指す「長崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や重点プロジェクト、各部局で定めた重点的取り組みを進めて、長崎のまちの基盤づくりなどの未来への投資や、市民の暮らしやすさにつながる施策に配分するという考え方のもと、予算編成を行いました。

平成29年度当初予算（一般会計）総額2,096億7,000万円

一般会計…市の基本的な仕事をする予算で、税金などが主な収入になっているもの。





歳入全体のうち、市が自ら確保できる市税などの自主財源は34.8%です。残り65.2%は国や県からの補助金や地方交付税、市債（市の借金）などで賄われます。

また、歳出全体のうち、減らすことが難しく、どうしても支払わなければならない費用である扶助費（福祉関係の経費）や人件費、公債費（借金返済）などが全体の65.5%を占めており、残りのお金でほかの仕事を行わなくてはなりません。

長崎市は、さまざまな収支改善を行っていますが、今後も人口減少や少子高齢化が続くことから、福祉関係の経費が増加することが見込まれます。そのため、自主財源の確保に努めながら事務の効率化を図り、持続可能な財政運営に取り組みます。

歳出を目的別に見てみると

費目		予算額
民生費	原爆被爆者や子ども、高齢者、障害者福祉など	1,006億8,900万円
土木費	道路、公園、住宅などの整備や管理	237億7,300万円
総務費	選挙や戸籍、徴税、財産の管理、文化振興など	167億　700万円
衛生費	環境保全、健康増進、疾病予防など	127億1,700万円
教育費	学校教育、スポーツ振興など	121億9,500万円
公債費	市債返済など	288億5,500万円
消防費等そのほか	消防、農林水産業や商工業の振興など	147億3,400万円
合計		2,096億7,000万円

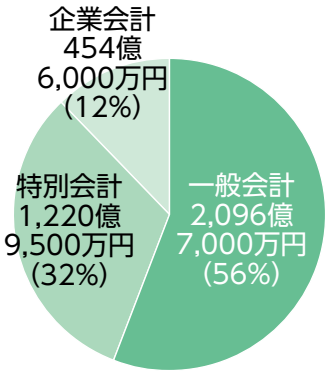
当初予算（一般会計）を、家計簿に置き換えると

収　入	金額	支　出	金額
①現金収入	**174万円**	**①生活費**	**328万円**
給料（市税）	127万円	食費（人件費）	66万円
パート収入（使用料・手数料など）	36万円	医療費（医療費の助成、生活保護など）	193万円
貯金の取り崩し（基金繰入金）	11万円	借入金（ローン）の返済（市債の元金や利子など）	69万円
②もらったり借りたりするお金	**326万円**	**②家の増改築費など**（道路や学校の新築改修など）	**48万円**
親からの仕送り（国や県からのお金）	264万円	**③その他の経費**	**124万円**
借入金（ローン）（国や銀行からの借入金）	62万円	光熱水費（光熱水費など）	48万円
		家具などの修繕費（施設の維持補修など）	4万円
※貯金（基金）残高 99万円		子どもへの仕送り（他の会計への繰出金）	31万円
※借入金（市債）残高 596万円		貯金（基金への積み立て）	1万円
		その他（補助金負担金など）	40万円
合計（①+②）	**500万円**	**合計（①+②+③）**	**500万円**

収入については、現金収入（給料＋パート収入など）が全体の３分の１と低く、親からの仕送り（地方交付税、国庫支出金など）に大きく頼った状況になっています。
一方、支出については、食費（人件費）などの削減に努めていますが、医療費（医療費の助成、生活保護など）の負担が大きいという状況です。
そういう中で、今、市民のみなさんに必要なことの把握に努めたり、将来に必要なことを見据えながら、これまでの取り組みを改めて検証して、既存事業の見直しも併せて行うなど、さまざまなやりくりをして、「みなさんに分かりやすく説明できる」予算編成となるよう心がけています。

ほかにも会計はあるの？

一般会計のほかに、特定の収入（保険料や使用料など）により賄われる特別会計（12会計）と、その仕事自体に収益があり、支出を収益で賄う企業会計（２会計）があります。
一般会計と合わせた全体の予算額は、次のとおりです。



全体　3,772億2,500万円

市の貯金と借金を教えて

市民１人あたりの貯金は
約 10 万円

貯金（基金）の残高見込みは 417 億 577 万円です。

市民１人あたりの借金は
約 58 万円

借金（市債）の残高見込みは 2,498 億 1,422 万円です。

※見込みは平成 29 年度末、一般会計分。
人口は 432,088 人で算出。
（平成28年12月31日現在）

こんな仕事を進めます

平成 29 年度は、総合計画に掲げる「世界都市」「人間都市」の実現に向けて、8 つの重点テーマに沿った事業を行います。その事業の一部をご紹介します。

1 個性を活かした交流の拡大

重点テーマ

出島の魅力を発信

（4,054 万円）

出島表門橋完成イメージ

今年 11 月の出島表門橋の完成にあわせて、オランダのロイヤルコンセルトヘボウ管弦楽団による長崎公演や特別企画展などを行います。
また、出島表門橋にて、出島の歴史やストーリーを表現するプロジェクションマッピングを実施します。

移住・定住を進めます

（1,848 万円）

移住や地域交流を目的とした戸建て空き家をリフォームする工事などの費用を助成します。交流スペースや学生向けシェアハウスなどへのリフォーム支援は、県内で初の取り組みとなります。

人を呼んで栄えるまちへ

（4,300 万円）

交流の産業化による長崎創生を進めるため、長崎の良さを引き出し、訪問先としての魅力を高める仕掛けづくりと効果的な発信に取り組みます。

2 平和の発信と世界への貢献

重点テーマ

核兵器のない世界の実現に向けて

（4,370 万円）

平和首長会議総会開催費負担金

8 月に長崎で開催される第 9 回平和首長会議総会において、被爆地から世界に向けて核兵器廃絶と恒久平和への力強いメッセージを発信します。

前回（2009 年）の長崎開催の様子

平和マラソンの実施検討

スポーツを通じて平和へのメッセージを発信するため、被爆 75 周年という節目の年である平成 32 年における「（仮称）長崎平和マラソン」（フルマラソン）の開催に向けた検討を進めます。

3 地域経済の活力の創造

重点テーマ

ものづくり企業を支援

（1,393 万円）

新規事業の創出に向けた研究開発を促進するため、地場企業が大学などと共同で行う新製品・新技術の研究に対する支援の期間を、これまでの単年度から複数年度に拡大します。

4 環境との調和

重点テーマ

神の島にプールが誕生

（5 億 8,770 万円）

新たに建設した西工場のごみ焼却熱を利用したプールと浴室を備えた「市民神の島プール」が、平成 30 年 1 月にオープンします。

7 創造的で豊かな心の育成

重点テーマ

夢に向けて努力する長崎っ子 (152万円)

キャリア教育推進事業費

将来の夢や希望を語り、実現に向けて努力する子どもを育てるため、さまざまな分野で活躍する人材を講師に招き、出会いを通して、夢を育む教育を進めます。

仁田佐古小校舎などの建設 (8億400万円)

小学校整備事業費

旧佐古小学校敷地に新校舎などを建設するとともに、西洋医学発祥の地である小島養生所跡の遺構との併存を図ります。その他、伊良林小学校など、老朽化した校舎などを整備し、教育環境の改善を図ります。

恐竜の化石を活かして (722万円)

恐竜博物館基本構想策定費

長崎半島で発見された恐竜化石を活用して、野母崎地区に恐竜博物館を建設し、市民の学習資源とします。今年度は、そのための基本構想を策定します。

交流を深めます (1,280万円)

ラグビーワールドカップ2019キャンプ誘致推進費
キャンプ交流事業費

事前キャンプ調印式

「ラグビーワールドカップ2019」にあわせて、長崎市で事前キャンプを行うスコットランドと、ラグビーを通じた交流をさらに深めて、市民のスポーツへの関心を高め、地域活性化につなげます。また、公認キャンプの誘致にも取り組みます。

8 多様な主体による地域経営

重点テーマ

民間団体の取り組みを応援 (1,014万円)

民間団体が取り組む、人口減少の克服や長崎創生につながるアイデアや具体的な取り組みに対して、市が事業を認定したり、資金面で応援します。

5 安心・安全で快適な暮らしの実現

重点テーマ

稲佐山へのスロープカーの整備 (5億9,150万円)

稲佐山公園山頂展望台を訪れる観光客などの増加に対応するため、新たにスロープカーを整備し、山頂展望台へのアクセス向上を図るとともに、夜景観光の推進を図ります。

スロープカーイメージ
（福岡県英彦山）

6 ともに支え合い、いきいきと暮らせる地域社会の実現

重点テーマ

地域密着型のリハビリ拠点 (885万円)

在宅支援リハビリセンター推進費

高齢者の自立支援のため、医療・介護・福祉の専門職と連携した地域密着型のリハビリ拠点として、全国に先駆けて在宅支援リハビリセンターを設置します。

中学生の入院も助成対象に (8億570万円)

子ども医療対策費

子どもの健康保持と子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、子どもの医療費助成について、平成29年10月から中学生の入院も助成対象とします。

子育て家庭の経済的負担を軽減します (4,136万円)

多子世帯保育料軽減

保育所、幼稚園などの保育料について、平成29年9月から、多子世帯軽減の要件を、これまでの「年収360万円未満相当世帯」から「年収470万円未満相当世帯」にし、軽減の対象を拡大します。